

- ・「都庁の仕組みと仕事」とスペインのこと
- ・追悼 裴重度氏
- ・2024衆議院選挙結果報告
- ・市政の動き

## 「都庁の仕組みと仕事」とスペインのこと



### 野上和裕（東京都立大学法学部教授）

#### 歴代研究員からのご寄稿No.3

野上和裕です。坪井先生、高原先生の寄稿を拝読して、偉大なお二人の後に私の雑文で本当に良いのか、真剣に悩みました。私は、1986年9月末で東京大学法学部の助手を終了した直後、都立大学に採用されるまでの間、つまり1988年の6月まで、川崎地方自治研究センターで研究員をしていました。

私の研究領域は、19世紀以降のスペイン政治史と現代のスペイン政治です。地方政治や行政学に縁遠い人が研究員に採用されていることには、不満に思った方も多かったと思います。特に私の場合は、社会人の経験の無い25歳の研究者の卵ですから、先のお二人の先生とも異なりました。自治研センターへの貢献は乏しかったのではありますが、センターに在職していたことが、その後の私には非常に糧となっております。

現在、私は本務校で専門科目の西洋政治史の他に、教養科目として「都庁の仕組みと仕事」を担当し、ここ10年以上早稲田大学社会科学部でスペインの現代政治について非常勤の授業を行っています。

自治研センターに大変お世話になっていても、これまで川崎市やセンターにご恩をお返しすることが無かったので、今回頂いた機会を利用して、大学の

授業の一端をご紹介したいと思います。

前半では「都庁の仕組みと仕事」という授業について説明し、後半に研究分野であるスペインの政治について説明することと致します。

#### 都庁の仕組みと仕事について

「都庁の仕組みと仕事」は、東京都の現役職員を講師にお願いしています。半期15回の授業で、初回の講義の概要説明を私がする以外は、残りの14回が毎回異なる部局の施策や組織などを伺えるオムニバス授業です。20年以上も、いろいろ試行錯誤して現在の形を作ったので、非常に思い入れのある授業科目となっています。

#### 発足

そもそもの始まりは、都立大学法学部のOBで中央官庁の役人となっている人たちが、「都立大学から来る後輩があまりに元気がない」ということに危機を抱いて提案されたもので、「役所の仕組みと仕事」という授業として発足しました。大学側の担当者となった先生は、当初から他の大学にはない授業を目指され、いわゆる就職案内でなく、成績評価を行って単位を認定する正規の教科に位置づけられま

した。その後、東京都が設置した大学というメリットを使って、東京都の職員についても同様の授業を設置しようという運びになりました。そこで、従来の役所の仕組みと仕事を「官庁の仕組みと仕事」に名称を変更し、新に「都庁の仕組みと仕事」を立ち上げることとなりました。元々は役所も都庁も、行政学・都市行政の専門の教員が担当していたのですが、その方の他大学への転出があり、私が二つとも引き受けることとなりました。行政学の先生が担当されていたときには、レポートの提出などで成績評価をすることもあったのですが、私は、レポートをきちんと採点することができない（例えば、書籍や論文の丸写しをされても分からない）ので、講師の話の内容を筆記試験で問うこととしました。その後、10年間以上両方の授業を担当しましたが、再度の在外研究を機に、「都庁の仕組みと仕事」のみを私が担当することとなりました。

#### 官庁の仕組みと仕事の都庁版の違い

さて、大学のOBにお願いする「官庁の仕組みと仕事」に比べると、「都庁」の場合は、依頼する部局をこちらで選べ、話の内容についてもある程度依頼ができますし、予想もできます。行政学の先生が担当すると、都全体の組織運営を担う財務局や総務局、主税局などの組織運営の部局が中心になるように思われます。しかし、私は、「どうせ行政学の専門家ではないのだから、私ならではの授業にしよう」と開き直り、次のことを念頭に依頼する部局を選定するようにしました。

1. 都の組織運営よりも直接都民に関係する施策を担当する部局を中心とする。
2. 今話題となっている分野の政策をお話いただけるように依頼を行う。
3. 知事部局だけでなく、地方公営企業や監理団体も必ず含める。
4. 都の政策だと余り意識されていない分野を含める。
5. 文化政策など、無駄と切り捨てられる可能性のある分野を含める

こういう方針の下、今年のラインアップは、下水道局、水道局、警視庁、東京消防庁、卸売市場、東京都交響楽団、政策企画局、総務局、都市整備局、環境局、産業労働局、福祉局、保健医療局です。そのほか、これまで依頼したことがあるのは、港湾局、

生活文化スポーツ局、選挙管理委員会事務局、財務局、主税局、議会局（東京都議会事務局）、監査事務局、労働委員会事務局、建設局、交通局、多摩動物公園です。

具体的な授業の内容は紹介できないのですが、依頼趣旨などを簡単に説明します。

多分、この中で一番目を引くのが東京都交響楽団（都響）でしょう。地方自治体で交響楽団を持っているところはかなりありますが、音楽に興味がない方には無駄遣いと糾弾される傾向にあります。学校への出張公演などができる程度のオケであれば良いとか、大編成のオケがいる難しい曲を止めて、モーツァルトやベートーベンなどの有名曲に特化しろといった、文化や芸術への冒険的な横やりをはねのけて、世界的にもトップクラスの実力を維持している都響には頭が下がります。都立大学も民業圧迫と非難されたことがありますので、個人的にも思い入れをもって依頼しています。

同じように民営化の圧力を受けているのが水道局です。もちろん、民営化反対の議論をお願いできるわけはありません。現在の東京都水道局の高度浄水処理や低い漏水率などの技術に加えて、正常で安全な水道を安定的に供給するために必要な事業を紹介してもらっています。学生が民営化論者になる場合でも、水道に対する理解と知識の裏付けのある議論をして欲しいと思っています。

下水道局も、必ず毎年お願いしています。私は、小学校まで下水道がない地域に住んでいましたし、大学に入って東京に出てきた際も、まだ武蔵野市まで下水道が完備されていませんでした。高校の友人で、これからは都市衛生工学が重要だと、その道に進んだものもいます。もちろん、今は生まれたときから水洗トイレだったという学生ばかりです。トイレが変わる感激は伝わらないだろうなと思いつつも、能登半島地震などでトイレに苦労しているという報道がなされているので、幾らかでも下水道の重要性が学生に分かってもらえればと、思っています。

中央卸売市場については、前は築地市場、今は豊洲市場の方に来ていただいています。移転問題でもめたときには、築地市場が移転を必要とする事情についての話も詳しくしていただいたのですが、「産地直送」というスーパーのうたい文句になれている学生に、中央卸売市場の役割をきちんと理解しても

らうことを授業の目標にしています。

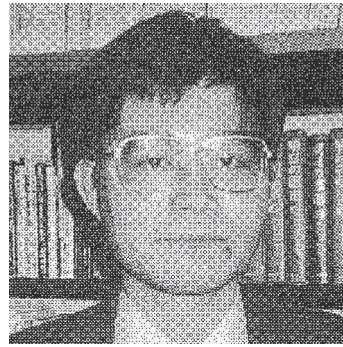
## 災害対策

私が都立大学に奉職して以降、阪神・淡路大震災、中部地震、東日本大震災、能登半島地震と、大きな地震だけでも何度も発生しました。東京では、首都直下型地震や南海トラフ地震などの危険が常に叫ばれています。そこで、毎年、災害対策に関連する部局から必ず講師をお願いしていますし、今年はとくに災害関係を重点にお話をお願いしました。水道局も下水道局も能登半島地震に際して被災地に支援に向かっていますが、災害救援と言えば、消防と警察が念頭に来るでしょう。

東京消防庁のお話を聞くと、災害対策の中心が消防にあることがよくわかります。阪神・淡路大震災に際しては、自衛隊の出動が遅れたと非難されたことがあります。東日本大震災でも、アメリカ軍の「トモダチ作戦」が脚光を浴びました。私が研究対象にしているスペインでも、2024年に起きた洪水被害で軍の出動が求められました。軍がヘリコプターを使って救援に駆けつけると人々の耳目がそちらに集まり、消防が後景に退いてしまうのは仕方ないのでしょうか。しかし、災害救援の装備を持ち、訓練もされているのは、軍ではなくて消防です。例えば、福島第一原子力発電所の原子炉の冷却も、消防でなければできませんでしたし、原子炉事故へ備えていたのは消防です。自治体の消防間の協力関係のネットワークが形成されています。学生には、消防の役割の重要性と共に、地方自治体の横の連携もしっかり学んでほしいと思っています。

警視庁は、東京都独自の組織であり、地方自治体の組織であるのに、幹部が国家公務員であるという異質な性格は、行政学上の特異事例ですので、必ず毎年お願いしています。もちろん災害が起これば、警視庁は、消防庁と同じく、自治体間の協定に基づいて、被災地に支援に向かいます。被災地は、犯罪も多発しますので、警察の役割は重要です。私自身が阪神・淡路大震災の時に感じたことですが、被災地で起きていた犯罪が隠されましたので、その点について認識が拡がることを祈っています。

今年はさらに、総務局総合防災部に「東京の防災」をお話しいただき、都市整備局には「防災都市づくり推進計画」を解説していただきました。



自治研センターニュース1988年2月号より

## 野上和裕専任研究員のプロフィール

1961・3・17 北海道赤平市で生まれる ■ 小学校4年の時兵庫県西宮市に転居 ■ 甲陽学院卒業後 ■ 1979・4 東京大学法学部に入学 ■ 1983・4 同学部研究室助手 ■ 1986・10 川崎自治研センター専任研究員・専攻 ヨーロッパ政治史・スペインにおける寡頭制的議会政治

## 学生の関心

依頼する部局を選ぶ際には、私自身の関心だけでなく、学生が関心を持っている分野、関心を持ってほしい分野も考慮に入れています。福祉に関心の多い学生が多いので、福祉保健局（2023年度からは福祉局と保健医療局に分割）は、その局の中でお願いする部を年ごとに変えることで、いろいろな分野の施策をお話し頂いています。（学生が福祉に関心を持っているというのは、福祉を名称に入れた大学や学部、学科が増えたことが証拠です。）

生活文化スポーツ局も多くの施策分野を抱えているのですが、東京オリンピックの前は、スポーツ政策が局レベルで独立しており、オリンピックの準備などについて、お話し頂きました。

受講生には、法学部だけでなく、ほぼ同数の都市環境学部の学生もおりますので、都市づくり、都市政策に関連する部局にもお越し頂いています。今年は前述の都市整備局にお越し頂いたのですが、毎年下水道局や水道局にお越し頂いておりますし、環境局や港湾局にも頻繁においで頂いています。私がスペインの専門家であるためですが、学生によく質問されるのがオーバーツーリズム問題です。そこで、東京都の観光政策を伺うために、産業労働局観光部に講師をお願いしています。

## 地方自治の担い手

実は今年の授業の初めに、政策企画局の人にお越し頂いて、東京都の総合計画についてお話し頂きました。当座の問題に対処するだけでなく、10年後、20年後の未来をプランニングする、そういった夢のある任務も自治体職員は持っているのだと、そんなメッセージを込めています。

私も、センターにいる間、市職員の方からお話を聞く機会も得ました。その時にあった市議会選挙の直後、いろいろな部局の話をお聞きする機会を得た

のは、「都庁」の授業の構成にいかされています。また和田秀樹（当時事務局長）さんの運転する車に、佐藤紘毅先生と同乗し、川崎市内を半日案内して頂いたのは大変貴重な機会となりました。授産施設に初めて伺いましたし、フルーツパークはその存在にびっくりしました。私自身は行政学や都市行政論の専門ではないのですが、むしろそれゆえに、全体像よりも、個々の施策に興味を持っているのかも知れません。

試験問題まで講師の方にお問い合わせすることはできません。授業の内容に沿った試験問題を作成するために、私も学生と同じように授業に出席して、一所懸命ノートをとります。「官庁」の方では、講師がOBですから、話の内容がしばしば今の学生へのお説教や心構え論が中心になります。そういった話が多くても、できるだけ客観性のある成績評価ができる問題を作りました。例えば、ある年には、行政情報の本人開示請求制度の設計に携わっているOBの話を知ることができたので、情報公開制度と本人開示請求との違いを問う問題を作りました。「都庁」の方は、施策の内容が中心になると言っても、話が総花的にならざるを得ないときもあります。そんな場合でも、何が話の肝になるか、それを見出して、試験問題を作ることとなります。この授業は、依頼の作成、日程の調整だけで無く、毎回、自分の専門外分野で、話のポイントをつかんで、問題を作成するという作業が必要となります。できる限り採点基準が客観的になるように、問題作成には神経を使います。動物園やオーケストラの授業で、どうやって試験問題を作るのか、びっくりされることもありますが、そこは腕の見せ所です。

「実務担当者が講演をする授業は他大学にもありますが、就職案内で無く、しっかり試験をする事例は初めて聞いた」と、取材に訪れた朝日新聞の記者に言われました。大学改革（2005年）の頃のことです。評議員として、疲弊していたので、自分が担当していた「官庁」「都庁」ともユニークな授業として紹介されたのは、救いでもありました。

講師の方は、例外なく、授業の準備を綿密にされており、内容も盛りだくさんで、手の込んだパワーポイントも用意されています。学生には、それに見合った真摯な態度で受講してほしいと考えています。そのため、初回授業で行うオリエンテーション

で、「楽勝の授業と甘く考えて、試験準備をしないと、ほぼ確実に不可がつく」と学生に宣言し、実行しています。この授業を受講することで、東京都に限らず地方自治で活躍する学生が多く誕生してほしいと思っております。

## スペインについて

さて、残りの紙数で私が研究しているスペインの政治についてお話ししたいと思います。外国研究は、スペインに限らず、断片的な知識から作られる国民性論に注意しなければなりません。私は、スペイン政治の授業で、最初に「ラテン系」というレッテルが嫌いだということを話しています。スペイン人というのは陽気で、人生を謳歌する国民だという誤解があるからです。もちろん、そういった性格の人もいます。しかし、太陽の下でぼかぼか暢気に暮らしているというのは、多分に1960年代の観光ブームを演出したスペイン政府観光局が作り出したものです。

時代を遡ると、それとは正反対なスペイン人のイメージが浮かび上がります。『モーティマー夫人の不機嫌な世界地誌 可笑しな可笑しな万国ガイド』という本があります。そこにモーティマー夫人が1849年に出版した『ヨーロッパの国々』という本に次の言葉が載っています。「スペイン人は、陽気でおしゃべりなフランス人と違って、まじめで無口です。スコットランド人のように快活でもなく、冷たくてよそよそしく、執念深いのです。とても誇り高く、貧しい人も、お金持ちと同じくらい尊大です。自分たちの国や言語を大切にせず、ヨーロッパでも一番立派な言語なのに、スペイン語の本にはろくな本がありません。」

1849年の本の記述が正確であったという訳ではありません。実は夫人は、イングランドの片田舎から一歩も出たことがない人で、当時のイギリスで流布していた見聞記やイメージをまとめたのでした。しかし、この本は、19世紀の中頃にイギリスでベストセラーとなった本で、当時のイギリス人の偏見を如実に表しています。つまり、現代の日本でスペイン人を直接知らずに「ラテン系」と思っているのと同様に、19世紀イギリス人はまじめで無口と思っていました。なお、同書は、ペリー来航前の日本について、自然災害が多発する国と記しています。伝聞だ



けで書いたにしては、それなりに正確です。

### スペインの政治

政治に話を戻します。スペインは、西側先進国の中で左翼が政権を取っている数少ない例の一つです。現在、ペドロ＝サンチェス首相が率いるスペイン社会労働党が、スペイン語で「合計する」という意味のスマールという共産党や急進左派の連合体をマイナーパートナーとして、政権を担っています。社会民主主義の政党が、左翼のアイデンティティに強く訴え、急進左翼や共産党の支持も得ているのが特徴です。

スペインは日本と違いすぎて参考にならないと、思われるかも知れません。ところが、案外スペインは、日本と政治的な制度条件が似ています。左翼勢力の配置で言えば、日本よりも不利な環境に置かれていたともいえそうです。ここでスペイン現代史を簡単に振り返っておきます。

スペインは、19世紀に3度にわたる内戦を経て、現在は1976年から立憲王政が続いていますが、1923年にプリモ＝デ＝リベラという将軍の軍事政権が誕生します。議会は閉鎖され、政党や労組は弾圧され、社会主義運動は禁止されます。その後、1931年に共和制となり、議会制が復活しますが、左右の政党間の対立が激化し、1936年に内戦が勃発します。

イタリアのファシスト、ドイツのナチの支援を受けたフランコ将軍の叛乱側が勝利し、フランコを独裁者とする長い独裁時代が続きます。再び社会主義者も自由主義者も弾圧され、ファシズム的な御用政党（ファランヘ党）以外の政党や労働組合は解散させられ、その資産は体制の機関に吸収されます。スペイン社会労働党も弾圧され、内戦前からの指導者

は、国外に亡命しました。この独裁体制は、冷戦で西側陣営に加わることにより、第二次世界大戦後も生き延びます。

### 民主化

民主主義の復活は、フランコが死ぬ1975年以後の話になります。フランコが後継者に指名したフアン＝カルロスが即位し、王政が復活しますが、この王政の下で、民主化が開始されます。1977年6月に自由選挙が実施されますが、社会労働党などの諸政党や労働組合が合法化されるのは、1977年になってからでした。

その選挙では、多数の政党が乱立しました。社会労働党は、1879年に設立されており、老舗であったのですが、亡命中の古参指導者に国内の急進的若手の対立があり、両者が分裂して選挙に臨んでいましたし、彼らと別個に社会民主主義を目指す政党も存在していました。また、カタルーニャなどでは、地域を基盤とする社会主義政党が誕生しました。つまり社会民主主義を標榜する政党は複数に分裂していたのです。

社会主義・社会民主主義勢力の支持基盤と言える労働組合（労働総同盟）についても、40年間の独裁時代には禁止されていて、組織力はほとんどありませんでした。共産党に近いグループが組織していた別の労働組合（労働者委員会）の方が有力でした。ところがそれにもかかわらず、社会労働党は、1977年の選挙では、350議席中118議席を得、当時の首相アドルフォ＝スアレスの与党民主中道連合の165議席に迫る野党第一党となったのです。（その後、1978年12月に現憲法が制定され、スペインも、ようやく民主主義の政治制度が整備されることとなります。）

ここで私の研究に触れます。民主化において、独裁体制内の穏健派と反体制派の中の穏健派同士の協定が重要であり、スペインはその実例であるというのが、通説でした。しかし、私は、政府の政策決定やその実施は一方的なものであり、協定などは神話に過ぎないと考えました。国王は、密かに社会労働党の躍進を阻止するための資金を集めていました。確かに、反体制派が政府の決定に従った場面がありましたが、それは既成事実の受入に過ぎないのです。なお、現在のスペインでの学界は、選挙制度、司法制度などで、独裁時の体制派の勢力を温存する

仕組みが現在まで存続し、保守派に有利に働いていることや、国王が民主主義を揺るがすような行動も採っていたことが共通理解となっています。

### 社会労働党政権誕生

社会労働党は、1982年10月の総選挙で202議席の単独絶対多数を獲得しました。5年前には非合法であった政党が単独政権に就くこととなったのです。その指導者フェリーペ＝ゴンサーレスは40歳になったばかりでした。1974年に国外で行われた党大会で書記長に選ばれたときは、国内の急進主義を代表していました。ところが1979年3月の総選挙で伸び悩んだとき、ゴンサーレスは、マルクス主義の放棄を決め、西欧型の社会民主主義政党への脱皮を図ります。ゴンサーレス政権は、革命を目指すのではなく、前政権時代に加盟したNATOへの残留決定、そして1986年1月1日付けでヨーロッパ共同体への加盟を達成しました。ゴンサーレス政権は、さらにユーロの加盟交渉を成功させ、1996年まで続くこととなります。(加盟自体は1999年)。

ゴンサーレス政権は、ヨーロッパ共同体(現在のヨーロッパ連合)加盟、共通通貨ユーロ加盟のために、産業の合理化を進めました。そのことが、労働総同盟との対立を深め、1988年12月には、政府の経済政策に反対する労働総同盟と労働者委員会の合同のゼネストが実施されます。社会労働党と労働総同盟との組織的な関係は、ここに断絶します。

ゴンサーレス政権は、新自由主義政権であるという主張がかつては支配的でした。しかし、カルラス＝ボッシュというアメリカの大学で活躍されているスペイン人研究者は、ゴンサーレス政権をサッチャー政権と比較して、教育や社会保障・福祉支出の増額、経済成長のためのインフラ投資を指摘し、その対照性を主張しました。私は、それに加えて、景気が好転した時期に財政支出を切り詰めたことは、むしろケインズ経済の論理に沿っており、ゴンサーレス政権の経済運営が、新自由主義と対極にあると考えています。

### 再度の社会労働党政権

1996年に、もともとフェランへの活動家であったアスナールが率いる保守の人民党に政権が交代します。アスナール政権は、サッチャーに範をとり、さらに過激に新自由主義政策(公営企業の民営化や規制緩和)を進めます。そこで行われた土地の利用規

制の緩和と、ユーロ発足(1999年)に伴う大量の外資の流入が結びついて、不動産バブルが発生します。バブル景気に乗って、人民党は、2000年総選挙で大勝し、単独過半数を獲得します。

ところが、そこから社会労働党が巻き返します。新に書記長についたサパテロの下で、党の運営が一新され、党の政策決定の会議に、いわゆる脱物質主義的価値観に基づく新社会運動(女性運動や、環境運動、LGBTQの運動)の活動家が、オブザーバー参加するようになります。彼らは党員で無く、決定権がないものの、彼らの主張が党の政策に盛り込まれます。2004年3月の総選挙は、イラク戦争の批判もあって、社会労働党が政権を奪取しますが、ここで誕生したサパテロ政権は、環境問題などでもっとも先鋭的な政策をとります。例えば、アスナール政権は地球温暖化に無関心でしたが、サパテロ政権になって、ヨーロッパで最大規模の風力発電施設が建設され、スペインの農村地帯の風景を一変しました。

サパテロ政権は、このような新たな社会運動活動家と経済テクノクラートで構成されていたと言えます。この両者の微妙なバランスが崩れたのは、2008年のリーマンショックとそれに続くユーロ(圏)危機でした。

サパテロ政権は、リーマンショックに対しては、公共事業の拡大などで対応したのですが、2010年5月12日に突如緊縮政策に転じました。政策転換の理由は明白です。前日に当時のオバマ米大統領から電話で要請され、またメルケル独宰相に要求されたからです。開催中のEUの財務省・中央銀行総裁会議ECOFINに出席中の副首相と電話でやりとりしながら、一晩で政策をまとめています。これは社会的に強い反発を招きました。公務員ストやゼネストがありました。2011年5月15日からマドリードやバルセロナなど主要都市の中心部で座り込みが行われました。なお、これが波及したのがウォールストリート占拠Occupy Wall Streetです。こうした抗議活動の結果、社会労働党は2011年11月の総選挙で大敗し、保守の人民党が単独過半数を達成し、ラホイ政権が誕生することとなりました。

### 急進左派の登場

先に触れた座り込み運動は、スペインでは15M(Mは5月の意味)と言われています。その組織的な特

徴として、政党や労組との結びつきを拒絶したこと、明確なリーダーを拒絶していたことで、この点でかつての左翼が排除され、その代わり、先に触れた新社会運動のネットワークが基礎にあったのでないかと言われています。他方で、その主張は、新社会運動のそれと異なり、社会経済的困窮と結びついており、かつての左翼に近かったと考えられています。この運動は、それほど長く続かず、潜在的な社会労働党の支持者を投票から遠ざけることにより、左翼の沈下を進め、保守による緊縮政策への障害を弱めたと言えます。

しかし、左派の空間に新たな政党が登場しました。それが2014年ヨーロッパ議会選挙で突如登場したポデモスという政党です。指導者のパブロ＝イグレシアスは、1年強の間、圧倒的な人気を得て（SNSの影響といわれたこともありましたが、現在ではテレビの影響というのが通説です）、ポデモスが社会労働党を上回るという予想もありました。

この急進左派は、反緊縮策や脱物質主義的価値観の政策を唱えています。それらの政策がもともと社会民主主義を特徴づけていたので、政策的に新味がありません。彼らの特徴は、政策の中身で無く、政策の実現に妥協することを知らないことだと考えて、左翼のポピュリズムと考える人もいます。

急進左派の影響は、社会労働党の中にも及びました。党内民主主義が強化され、下部党員の意向がより強く反映するように、リーダー選出方法が改まりました。そこで2014年のヨーロッパ議会選挙後、社会労働党の書記長となったのがペドロ＝サンチェスです。一般党員の投票で党のリーダーに選ばれたスペインで最初の事例となりました。

### サンチェス政権の誕生

絶対多数を獲得したラホイ政権でしたが、緊縮政策によっては経済危機を克服できず、右翼・保守の陣営でも急進派の擡頭や政党分裂が生じました。人民党も支持を大きく失い、2015年12月に行われた総選挙では、過半数を得た政党が誕生せず、翌年6月に再選挙になりました。社会労働党のサンチェスは、下部党員の圧倒的な支持を得ており、ラホイ政権の継続を阻止すべく、強硬な態度を示しました。しかし、古参党员や地方の有力者を中心とする再々選挙（12月25日に予定されました）を回避したいグループは、執行部の反対派を糾合して、サンチェス

を書記長及び議員辞任に追い込み、ラホイ政権の継続に協力しました。

社会労働党内では、下部党員に支持されるサンチェスと古参党员・地方ボスの対立が生まれました。前者は、社会労働党の左翼政党としてアイデンティティを強調し、後者は現実主義的な妥協を模索しました。この争いは、2017年6月に行われた全国党大会で、圧倒的多数の党員の支持により、サンチェスの劇的な返り咲きという結果に終わりました。

どん底からよみがえったサンチェスでしたが、そこから1年もしないうちに、首相に就任することとなりました。きっかけは、与党の人民党の組織ぐるみの汚職が裁判所に認定されたことでしたが、急進左派が支持を集めたことが決定的でした。社会労働党は、不信任案を提出し、サンチェスを首相にするという議案に、ポデモスだけでなく、バスクやカタルーニャの独立派政党を含めた地域主義政党の支持も集めることに成功したのです。

### サンチェス政権の政策

サンチェスは、2019年の総選挙（このときも再選挙が行われました）後に、ポデモスを閣内に取り込み、2023年も総選挙に勝利し、現在まで政権を続けています。この間、新型コロナウイルスのパンデミック、ロシア・ウクライナ紛争を契機とするエネルギー価格の高騰やインフレなど、様々の困難に直面していますが、それでも労働法制や年金について前政権で行われた新自由主義的改革の見直しの実現、フランコの墓地の移転、カタルーニャの独立問題の事実上の解決（独立運動の沈静化）、イスラエルのガザ地区でのジェノサイドの批判とパレスチナ自治政府の承認等、様々な左翼の懸案を実現しています。サンチェスは、アメリカの大学で教鞭を執った経験もある経済学者です。景気刺激策としての財政出動には有効性がないとしても、貧富の格差の解消のために、財政を運用しなければならないとします。金融機関への課税やGAFAsへの課税などを提唱し、所得の上位層への課税を強化することで、福祉政策とくに年金の維持を図るべきだとしています。この提案を踏まえた財政改革法案がようやくこの11月末に成立しました。経済指標で見ても、EUの中でインフレ率も経済成長率も最も良好な数字となっています。

今日のスペインでも左翼にとって厳しい政治環境が存在します。裁判官が保守的な政治信条を露骨に

示して、政治に介入することが普通に行われています。教会を「映える」ように写真に撮ってSNSに挙げた人が、不敬として有罪になった例さえあります。中道左派の新聞と言われていたエル・パイス紙は、自ら世界的なマネーゲームの加わり、急進左派を嫌悪し、2016年のサンチェスの排除に手を貸しました。

政党の構成でも、人民党が右寄りにシフトしただけでなく、スペインには無いと言われていた極右ポピュリスト政党ボックス(Vox)も擡頭しています。ボックスには、フランコ時代へのノスタルジーが顕著です。地方レベルでは、人民党とボックスの連立政権が作られています。さらに、2024年になって、SNSでデマをまき散らすことで支持を拡大した、より右翼(テクノファシズムと言われてます)の勢力が登場しました。世界的に、左右の分極化が進んで、情緒的対立が深まっている状況は憂慮すべきだと考えられています。

では、なぜスペインで社会労働党が成功しているのか。今、いろんな仮説を検討していますが、これとはいう答えにはたどり着けていません。ただ、素朴な印象論ですが、スペインの政党は、右でも左でも、頻りに大衆集会、一般集会を開催しています。ペドロ＝サンチェスは、首相になってからは回数が幾分減っているように感じますが、毎週土日に全国

の党の集会(多くは野天ですが、ちゃんと椅子が並んだ会場で参加者が座っています)で演説しています。全国大会ともなると、巨大なホールなどで開催されています。選挙になると、サッカー場などを埋め尽くした集会を行っています。それだけでなく、いろいろな機会で大勢の人が集まる集会に政党のリーダーが参加します。反戦運動や環境保護活動だけでなく、国際婦人デーの集会、日本でも最近行われるレインボーマーチなど、スペインではそこにはほぼすべての左翼の政党が参加します。一般の党員だけでなく、ほぼ例外なく党首などの幹部層が顔を出します。日本の政党でも参加する集会はあるでしょうが、スペインの場合、頻度や参加の度合いが違い、党員や一般市民と政党との距離が近いように思います。

### 最後に

最後になりましたが、私も後1年と少して大学を定年になります。月日の経つのがなんと速いのかと呆れます。社会も変わりましたが、大学もずいぶん変わりました。都庁の授業も私が退職した後も続くでしょうが、きっとこれまでよりも充実したものになると思っていますし、地方自治体の存在の重要性の理解に資するものとなるよう、そして、多くの自治体職員や、自治体のことを理解している社会人を数多く生んでくれると思っています。

## 追悼 裴重度氏

在日コリアンの人権向上に貢献した裴重度氏が11月23日(土)逝去されました。享年80歳。氏は世田谷区で生まれ、学生時代から日本社会の在日コリアンへの差別問題や韓国の民主化運動に関わり、金大中元大統領の日本滞在中の親衛にも携わりました。結婚後川崎区桜本に拠点を移し、全国的な民族差別と闘う運動のリーダーとして活躍されました。また、多文化共生施設ふれあい館館長、青丘社理事長として川崎市の在日外国人の人権問題に取り組み、川崎市外国人市民代表者会議設立に尽力されました。また韓国・富川市との交流にも携われ、2016年に富川市名誉市民に賞されました。2020年川崎社会功労章など受賞。

当センターも、指紋押捺問題、在日外国人無年金者への対応、地方公務員採用における国籍条項の撤廃、富川市交流、ヘイトスピーチ対策など、さまざまな分野でご指導いただきました。合掌。





## 2024衆議院議員選挙結果

第50回衆議院議員総選挙が10月27日（日）に行われた。

自民党の裏金問題が引き金になり岸田総理が退陣し、10月1日に石破総理が選出されてわずか8日後の9日に衆議院が解散し、15日に公示されるという慌ただしい選挙となった。結果は、自民・公明の与党が大敗して少数与党になった。これまでの自民党が圧倒的な力で強引な政権運営を行ってきたのとは異なり、野党と協調するなど熟議が求められる厳しい状況が続くと予想される。

本選挙の特色は、争点となった政治とカネ、円高による景気悪化などの他、選挙前に自民党のみならず公明党（山口→石井）、立憲民主党（泉→野田）と代表の変更があったことがあげられる。とりわけ自民、立憲の代表選挙は9月から10月にかけてメディアでも大きく取り上げられ、その延長戦上に総選挙が続くという長期間にわたり、時の政治課題が有権者に刷り込まれていった。

また、4月の東京都知事選挙で石丸現象といったSNSを通じた選挙運動の影響が起きた。総選挙も例外ではなく、玉木率いる国民民主党、山本太郎のれいわ新選組、参政党、河村たかし・百田尚樹の保守党が議席を伸ばすなど少数政党による多党化が進んだ。SNS選挙の影響については、その後のアメリカ大統領選挙、兵庫県知事選挙、名古屋市長選挙などでもその結果を左右する大きな要因となった。

自民党が失った議席は、小選挙区では立憲が引き継いだ。立憲の比例票はさほど伸びなかった。公明党、維新は減少し選挙後代表が交代したが、公明党（石井→斎藤）は支持母体の創価学会が池田大作というカリスマを失い、維新（馬場→吉村）は万博などの懸案課題があり、回復傾向は見えていない。

川崎市においても概ね同様の結果となった。※表参照。また選挙区割の変更により新たな19区は宮前区が18区から分かれ横浜市青葉区と一緒になるなどの変化はあったが、比例選出も含め当選議員の数は19区を入れて一人増えて7人となった。2021年自民3、立憲1、国民1、維新1。2024年自民3、立憲2、維新2。（文責・板橋洋一）

衆議院議員選挙比較							
9区			合計	川崎区	幸区	中原区1	
2024	田中和徳	自民	57,380	32,182	25,198		
2021			104,832	41,780	32,503	30,569	
2024	金村龍那	維新	51,121	25,617	25,504		
2021			69,594	22,339	22,272	24,983	
2024	鈴木光貴	立憲	39,409	19,589	19,820		
2021	鈴木敦	国民	30,013	9,627	9,311	11,075	
2024	片柳進	共産	17,700	10,564	7,136		
2021	畑野君枝		48,839	18,542	14,789	15,508	
10区			合計	多摩区	麻生区		
2024	笠浩文	立憲	93,878	47,091	46,787		
2021			83,847	41,971	41,876		
2024	中山展宏	自民	52,358	28,767	23,591		
2021	中山展宏		68,918	38,618	30,300		
2024	吉田大成	維新	24,283	13,637	10,646		
2021			24,547	13,219	11,328		
2024	赤石博子	共産	18,835	11,583	7,352		
2021	斉藤温		20,432	12,268	8,164		
18区			合計	中原区	高津区	19区	
2024	宗野創	立憲	68,632	35,939	32,693	佐藤隆	24,759
2021	三村和弘		90,390	52,812			37,578
2024	西岡義孝	国民	52,596	29,975	22,621	深作ヘスス	26,868
2024	山際大志郎	自民	52,593	28,700	23,893	草間剛	29,731
2021			120,365	68,904			50,481
2024	横田光弘	維新	27,727	15,136	12,591	添田勝	16,207
2021	横田光弘		41,562	24,551			17,011
2024	君嶋ちか子	共産	21,898	12,444	12,444		
2021						横関勝弘	5,272
19区			宮前区				
2024	草間剛	自民	29,731				
2024	深作ヘスス	国民	26,868				
2024	佐藤隆	立憲	24,759				
2024	添田勝	維新	16,207				
2024	横関勝弘	共産	5,272				
2024	末吉小百合	無所属	2,672				

## 川崎市の主な動き 2024年10月～11月

## 10月

## 2日 「ふるさと納税」返礼品に市バス小型車 寄付金1300万円

市は「ふるさと納税」の返礼品として、市内を運行していた「バス小型車」2両など市バスならではの出品を始めた2日、発表した。車両年式は2011年度、全長約7㍎、車幅約2㍎、高さ約1㍎、乗客人数は運転手1人、乗客35人、運転資格は大型自動車第一種免許（旅客運送の場合は大型二種免許）で、バス小型車1台の寄付金額は1300万円。この他70万円の寄付で車体についていた行先表示機「LED方向幕」1セット、1万4千円で廃車部品グッズセット、1万円でバス停標識がある。

## 4日 市有地の無償貸与445施設 政令市平均の8倍超

市は4日、市議会決算審査特別委員会の三宅隆介議員（無所属）の質問に、民間の福祉関係施設に対して市有地計190か所を無償で貸し付け、計445事業所が使用していると明らかにした。前理事長の資金私的流用が問題となった社会福祉法人には市から計8事業所に土地の無償貸し付けがあった。同議員は市の無償貸与施設数は政令市平均の8.2倍と異様なほど突出していると指摘した。

## 8日 「川崎ハローブリッジ」を芝生緑化 国道歩道橋で全国初

19日開幕の「全国都市緑化かわさきフェア」の会場の一つ「富士見公園」（川崎区）とJR川崎駅をつなぐ主要ルートで、国道15号にかかる横断歩道橋「川崎ハローブリッジ」に約100㎡の芝生が敷き詰められ8日、同所でセレモニーが行われた。国道の横断歩道橋への芝生緑化推進は全国初の取組み。芝の種類は生育が早く踏圧に強い新品種の高麗芝を選定、芝生へは自由に入ることができる。

## 12日 「祖国へ帰れ」裁判の意義訴える出版記念会 川崎区で

在日コリアン女性への「祖国へ帰れ」とのインターネット投稿は「差別で違法」と認定した横浜地裁川崎支部判決を受け、その意義を振り返る本『『帰れ』ではなく『ともに』』（大月書店）の出版記念会が12日、市労連会館（川崎区）で開かれた。被害を受け提訴した崔江以子さんや訴訟を担当した神原元、師岡康子弁護士ら共著者が登壇、執筆に込めた思いや人種差別撤廃基本法と差別禁止法制定の必要性を訴えた。市のヘイト条例制定に尽力した元参院議員・斎藤文夫さんもメッセージを寄せた。

## 15日 遺族の負担軽減「おくやみコーナー」開設 区役所に専用ブース

市は15日、亡くなられた方の遺族が行う手続きの負担軽減のため区役所に予約制の相談窓口「おくやみコーナー」を開設した。事前に予約すると①亡くなられた方の手続きの確認②手続きに必要な持ち物の事前案内③遺族の来庁時の申請書作成支援等をまとめて行う。各区の担当者は区民課や保険年金課などに照会、世帯主変更届や葬祭費の支給申請、介護保険被保険者証の返還など必要な手続きを確認、申請書の記入などの支援を行う。各区に専用ブースを設置、1日4枠、4日前までに予約が必要。

## 16日 「子ども夢パーク」がグッドデザイン賞に選出

「市子ども夢パーク」（高津区）が子どもの権利を尊重しながら「遊び」や「つくる」という軸を持つ場を20年以上作り続けたとして、公益財団法人日本デザイン振興会主催の「グッドデザイン賞2024」に選出された。この賞は形のあるなしにかかわらず人が理想や目的を果たすために築いたものごとをデザインととらえ評価、表彰するもので、「夢パーク」は子どもの自己責任でチャレンジできる場を提供し、子どもの意見を取り入れ、大人や地域と共に場を作り続けた姿勢を場のデザイン、人間性を高める場づくりの好例としている。

## 19日 全国都市緑化フェア開幕 160万人の来場見込む

国内最大級の花と緑の祭典「第41回全国都市緑化かわさきフェア」が19日、開幕した。1983年から全国各地で開催され、今回初めて秋・冬の実施。富士見公園（川崎区）、等々力緑地（中原区）、生田緑地（多摩区）の3会場をメインに計約230種約13万株の花々を植え、約160万人の来場を見込む。富士見公園では地元のキッズチャリーディングクラブ「バンビーズ」や「樹形一輪車クラブ」らがオープニングセレモニーを飾った。フェアは11月17日までと来年3月22～4月13日開催。

## 19日 旧川崎球場の照明塔モニュメント設置 富士見公園に

リニューアルオープンした富士見公園（川崎区）に19日、旧川崎球場から使用されていた照明塔の基礎の一部を保存し部材の一部を使ったモニュメントが設置された。公園事務所「パークセンター」には展示スペースも開設、照明塔碑とあわせ川崎球場の歴史を伝える拠点として一般公開された。「10・19」の死闘を演じたロッテオリオンズと近鉄バファローズのユニホーム、張本勲選手の3千本安打、王貞治選手の700号ホームラン達成記念プレートなどが飾られている。

## 20日 旧東海道上で「百鬼夜行パレード」 沖縄芸能も披露

市制100周年記念の東海道川崎宿場祭りの一環として20日、「カワサキ百鬼夜行練り歩きパレード」が行われた。砂子2丁目交差点から宗三寺までの旧東海道約430㍍を通行止めにして和装や妖怪コスチューム姿の行列が続いた。川崎沖縄芸能研究会も参加、同研究会の人気演目の一つで途絶えていた「ジュリ馬行列」を披露。女性三線演奏家の音色に合わせて馬具を装着した紅型をまとった踊り手25人が「ユイユイユイ」と明るい掛け声を響かせた。

## 31日 市「公害保健センター」廃止へ 市議会委員会

市は31日の市議会健康福祉委員会で、横浜市と共同出資する公益財団法人「川崎・横浜公害保健センター」（川崎区）への業務委託を2026年度で終了する方針を明らかにした。法人は解散する見通し。同センターは公害病患者の健康回復などを目的に両市が1977年に設立。法改正で現在、新規の公害認定はなく被認定者は年々減少、法人の収支不足もあり、「廃止という整理もあり得る」と指摘されていた。同センターでの被認定者の更新に必要な医学的検査は民間医療機関の活用などで継続する。

## 11月

### 1日 「全国都市緑化祭」佳子さま迎え開催 富士見公園で記念植樹

「第41回全国都市緑化かわさきフェア」の中心的行事「全国都市緑化祭」が1日、秋篠宮家の次女佳子さまが出席してカルッツかわさき（川崎区）で開催した。式典には約600人が出席、同フェアの主会場の一つ富士見公園（同）で宮前小学校（同）の6年生7人が緑化宣言をした。佳子さまは富士見中学校（同）の2年生2人と記念植樹の後、生田緑地ばら苑、日本民家園などを訪問した。

### 2日 川崎駅周辺「川崎愛遊びつくす3日間」 4イベント同時開催

市などは2～4日間「川崎愛遊びつくす3日間」と題し、四つのイベントをJR川崎駅周辺で同時開催した。街や社会の未来を考えるイベントの「Colors, Future! Summit 2024」は2、3日、市役所本庁舎やラゾーナ川崎プラザで、プレイキンやダブルダッチのショーなど「みんなの川崎祭り」は3日市役所通り約500㍍の歩行者天国で、地元の人気屋台グルメが楽しめる「川崎夜市」は2、3日東口駅前広場やチネチッタ通りで。川崎ゆかりの店舗による物産展「かわむすのおんがえし」は地下街アゼリアで川崎信用金庫が主催。

### 5日 「かわさきマイスター」に新たに5人認定

市は5日、極めて優れた技術・技能を有する今年度の「かわさきマイスター」に新たに5人を認定し、認定証授与式を行った。選ばれたのは、機械設計・製作の遠藤豪人さん（55・高津区）、無電解ニッケルめっき表面処理の鈴木宏さん（55・川崎区）、温間・冷間圧延加工の西雅也さん（47・中原区）、左官の橋本大輔さん（52・麻生区）、スタッド溶接の松林繁さん（65・川崎区）。同事業は1997年度から始まり2024年度で83職種129人が認定を受けた。

### 8日 「市文化賞」にブレイクダンサーの石川さん シネコンのチッタグループも

2024年度の「市文化賞」など各賞の贈呈式が8日開かれた。文化賞はJR武蔵溝ノ口駅を「プレイキンの聖地」となる礎を築いた市出身のブレイクダンサーの石川勝之さん（43）と国内初のシネコン「チネチッタ」やライブホール「クラブチッタ」を開業するなど川崎駅前を「映画街」に発展させたチッタグループが選ばれた。「社会功労賞」は市視聴覚障害者ボランティア連絡会議相談役の齋藤準（しとし）さん（80）、市産業振興財団ナノ医療イノベーションセンター長の片岡一則さん（73）、「アゼリア輝賞」はクラシックギター奏者の齋藤優貴さん（27）、サクソフォン奏者の渡辺瑠菜さん（21）。

### 14日 「母子育成会」来年にも解散の方針 元常務らの告訴検討

社会福祉法人「母子育成会」（川崎区）の深瀬亮一元理事長が法人の金8億円余を私的に流用していた

問題で、同法人が来年にも解散の方針であることが14日までにわかった。今月新たに理事長就任の横田明彦氏は、流用した責任を取ってもらい解散の検討を明らかにした。認可保育所や高齢者施設などは10月までに別の社会福祉法人に事業譲渡が完了。同法人は元理事長を業務上横領容疑で告訴、理事長代行職を務めた元常務理事に損害賠償を請求、同理事と評議員の2人に業務上横領で告訴を検討。

#### 15日 38階建ての超高層ビル登戸駅前再開発 来年着工

登戸駅前地区市街地再開発準備組合と東急不動産、小田急不動産、東急の4者は15日、JR・小田急線登戸駅前（多摩区）で進めていた再開発事業を来年度着工すると発表した。駅南側の約6千平方メートルに高さ140メートル、地下2階・地上38階、延べ床面積約6万3500平方メートルの超高層ビルで、1～4階の低層部はレストランなどの商業施設、5～38階の高層部は約450戸の住宅を設ける。2階部分には駅からの既存デッキとつながる新たな歩行者空間や立体広場などを整備する。2029年度完成予定。

#### 16日 共に生きる街づくり50年「青丘社」 桜本で記念式典

在日コリアン集住地区の川崎区桜本でともに生きる街づくりに取り組んできた社会福祉法人青丘社の設立50年を記念する式典が16日、地元の在日大韓基督教会川崎教会で開かれた。青丘社は入園拒否という民族差別を契機に設立した桜本保育園が出発点。その後「誰もが力いっぱい生きるために」を理念に差別をなくすための公的施設「市ふれあい館」や保育園の運営、高齢者・障害者の福祉サービスなどを地域と共に行ってきた。式典では三浦知人理事長や裴重度前理事長の挨拶や在日高齢者交流サークル「トラヂの会」のハルモニたちの朝鮮の歌や踊りが披露された

#### 19日 新キャラのヘイト「言わザル、書かザル、拡散せザル」 ヘイト解消キャンペーン

市は、インターネット上でのヘイトスピーチ解消に向けたキャンペーンを始めた。啓発動画「シャットアウト！ネットヘイト」を作成、新しいキャラクター「ヘイト言わザル」、「ヘイト書かザル」「ヘイト拡散せザル」の「三猿」がだるまを掛け合わせたデザインで登場、ネットヘイトを締め出そう！と強く呼び掛ける。今後、X（旧ツイッター）等のインターネット広告を中心に発信していく。

#### 20日 企画展「風船爆弾、本土決戦準備と女の子たちの戦争」 明大平和教育登戸資料館

太平洋戦争末期に旧日本軍が強い期待をかけた風船爆弾に焦点を当てた企画展「風船爆弾作戦と本土決戦準備—女の子たちの戦争—」が明治大学平和教育登戸研究所資料館（多摩区）で20日から来年5月31日まで開催される。同大生田キャンパス敷地内にあった旧陸軍登戸研究所で研究・開発された風船爆弾は「決戦兵器」と位置付けられ、13～16歳の女学生の動員で和紙を貼り合わせた直径約10メートルの風船爆弾の気球部を製作、米国本土へ向け9300個が発射された。同展ではその結末や陸軍がなぜ強くこだわったか、本土決戦準備などを明らかにする。

#### 21日 「新市民ミュージアム」ばら苑との一体整備 市が基本計画案

2019年10月の台風19号による浸水被害で休館中の「市市民ミュージアム」(中原区)について市は21日、「新たなミュージアムに関する基本計画案」を発表した。多摩区の「生田緑地ばら苑及び周辺区域再整備エリア」に移転新設する内容で、ばら苑との一体的整備を検討する。再整備エリアは約3.5ヘクタール、新ミュージアムの想定延べ床面積は約9500～1万1500平方メートル。最短で2031年度の開設を見込む。

#### 23日 「市ふれあい館」元館長 裴重度さん死去

マイノリティの権利保障を目指し、様々な差別をなくす活動に取り組んだ社会福祉法人青丘社前理事長の裴重度氏が23日療養中の自宅で死去した。80歳。市ふれあい館の開設に情熱を注ぎ館長を20年間務めたほか、在日コリアンの指紋押捺拒否、児童手当獲得、公営住宅入居資格、市外国人市民代表者会議の設立などの運動を牽引した。市の友好都市韓国・富川市との草の根交流の発展に努め2016年富川市名誉市民。04年に神奈川文化賞、20年に市社会功労賞を受賞。

#### 29日 特別市政功労賞の斎藤文夫氏が死去

市出身の元参議院議員・斎藤文夫氏が29日、川崎区の病院で死去した。96歳。地元の宮前小学校（川崎区）出身、県議計5期、1986年参院神奈川選挙区から初当選し通算2期務めた。政界引退後は浮世絵コレクターとして2001年自宅を改装した私立美術館「川崎・砂子の里資料館」を開館、その後19年に市が川崎駅前に開設した「川崎浮世絵ギャラリー」の名誉館長に就任。市観光協会会長、川崎港振興協会会長を歴任、13年に神奈川文化賞、7月に市制100周年記念式典で特別市政功労賞を受賞。